第2回京都市教育学講座　若手教員6名によるパネルディスカッション「教師の喜びと厳しさ」

第2回は、京都市の小学校、中学校、高等学校、総合支援学校で、また、養護教諭、栄養教諭として活躍されている採用2年目の若手教員によるパネルディスカッションを実施しました。「教師の喜びと厳しさ」をテーマに、教師塾生にとっては先輩にあたる先生方の具体的な実践や学校現場で働く上での思いや考えについて、熱意あふれる言葉をたくさん聴くことができました。パネリストの中には、他府県出身の先生もおられ、なぜ京都市で働くことを決意したか、京都市で働いてみてどのように感じているか等、若手教員であっても活躍できる場がある京都市立学校の魅力についても、たくさん語っていただきました。また、教師塾生だったかつての自分たちの不安や迷いを思い返しながら、今、子どもたちと日々向き合う中で感じている喜びや、教員として大切にしていることなどについて、エピソードを交えながらわかりやすくお話しいただきました。分散会では、パネリストの6名にもそれぞれのクラスを巡回していただき、子どもたちとの望ましい関わり方や、教材研究の進め方、同僚との『報告・連絡・相談』をどのように進めていくか等、塾生からの様々な質問に対し、とても丁寧に答えてくださいました。自分たちと比較的年齢も近い先生方のお話に共感しながら聴く塾生の姿が印象的でした。

第1回特別講座　講師;京都市教育委員会学校指導課　島本 由紀 参与「地域とともに育む京都の教育 ～番組小学校の創設と京都ならではの教育活動～」

特別講座は、今日的な教育課題についての理解を深めるための講座で、京都市の教員採用内定者の研修にも位置付けられています。第1回は京都市教育委員会学校指導課の島本由紀参与に、地域と共に歩んできた京都の教育についてご講義いただきました。地域の範囲や資源といった概念について解説された上で、京都では町衆の熱い思いによって、明治2年から番組小学校が設立され、「まちづくりは人づくりから」という理念の元、地域の力を生かした教育が実践されてきたことを、様々な資料を示しながらお話しされました。

社会が大きく変化する現代において、学校の教育課程が社会に開かれていることはとても大切です。また、京都には、人材、文化財、産業などの様々な面で、地域ごとの優れた特色があります。それらを学校の教育目標やカリキュラムと照らし合わせながら、どのようにして教育のための資本として生かしていくか。学校と地域のよりよい協働の在り方について、広い視野と柔軟な思考をもって、これからも考えていきましょう。

仲間のレポートに学ぶ

第２回京都市教育学講座【パネルディスカッション】
「教師の喜びと厳しさ」を受講して

１組

私は教育学部ではなく、所属している学部から先生になる人も少ないので、今回の講義で若手の先生が実際にどのようなことを考えて働いているのかを聞ける貴重な機会を体験でき、教師塾に入ってよかったなと早速思いました。教員採用試験でどこの自治体をうけようか悩んでいましたが、若手の声がよく通るという話を聞き、教師塾も通っているし京都市を受けたいなという意思が強くなりました。学生時代の不安は教師塾での学びが解消してくれるとほとんどの先生がおっしゃっていたのと、分散会で教科指導に不安を感じていると質問した際に、最初からできる先生はいないし、周りの先生からのサポートもあるからどうか不安がらずに飛び込んできてほしいという言葉をいただき、不安が少し和らぎました。

今回の講義で気づいたことは、過程の大切さ、報連相、多面的な視点から生徒を見るということです。過程を褒めるには、その生徒を長い目で、よく観察することが必要だと感じました。よく見ているからこそ、その生徒が何をしてきたかを知っていて初めて過程を褒めることができるからです。これを実際クラスの生徒に一人で行うことは大変だと思いますが、周りの先生方と報連相を行い、何気ない情報も交換する事で実践していきたいです。

主体的な学びが求められますが、喋ることが得意な生徒や苦手な生徒、文章を考えることが得意な生徒や苦手な生徒様々であると思います。より多くの生徒が授業に楽しく取り組めるように、活躍の場を増やしたいと考えノートを大切にしたいと思いました。また、部活においてもノートを作ることで、担任以外の濃いコミュニケーションが作られると考えました。実際に私もクラブノートが中高の両方あり、それらのノートに書かれた言葉に何度も励まされましたし、今でも見返すことがあります。そして多面的な視点から生徒を観察することで、その子にあったアプローチ方法が見つかるのではないかとグループワークを通して感じました。授業を真面目に受けることが出来ない生徒でも部活は休まずに取り組むというように、数学は苦手だけれど社会の授業には興味を持って取り組む、グループワークは苦手だけれど文章を書くことはとても上手である、のようにそれぞれが得意とする部分からアプローチすれば、生徒も心を開いてくれるのではないかと考えたので、多面的な視点から生徒を観察する必要性を感じました。

講師の先生方との質疑では、塾生から「不安」に起因する質問がいくつかありましたが、若い世代の先生方の生の声で、少しずつ不安が和らいでいき何よりです。これからは学校実地研修やフィールドワークなど、現場での学びの機会も増えてきます。自分自身の経験（学び）の積み重ねで、将来へのワクワクに変わっていくことを期待しています。一方、生徒とのコミュニケーションでは、クラブノートをとおして、ノートに書かれた言葉に何度も励まされた経験が記され、多面的な視点での観察、多様なアプローチによる子どもの成長を、より具体的に考えることができましたね。　～レポート担当スタッフからのコメント～

２組

３組

４組

５組

６組

７組

８組

補講（11/6）の様子